MAENAN SAH Journal Vol.141

『自分で考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～　2026/1/13

色々な人の思いが繋がって…前橋南高校応援歌復活

前橋南高校 50 周年の今年度、応援歌「闘魂」がよみがえった ── 。今号は、その復活の過程を特集します。（編集　教頭）

①50 周年の今年度・・・

前南 OB の長井先生（4期生）は、応援歌「闘魂」が生徒手帳に載っているのにずっと歌われていない状態だったので、どこかで披露できる機会がないかなと機をうかがっていたそうです。50 周年の今年度がチャンスではないかと周りに話をしてみたのが応援歌「闘魂」復活の始まりです。同じく前南 OB の岡田明先生（19 期生）に話を聞くと、当時野球部だったが「応援歌」が歌われた記憶はないという。しかし、生徒手帳をめくりながら応援歌「闘魂」のページをふと見たとき、「作曲者が当時の音楽の先生であり、そう考えると 1993（平成 5）～2003（平成 15）年の間、特にその期間の後半に作られた可能性が高いのでは」とのことでした。そして、生徒からも・・・

②野球応援で復活「闘魂」

2025 年夏、野球部夏の大会で応援歌「闘魂」が復活、6回に有志の応援団で歌う。当時の生徒会長の腰高さんが音楽の米山先生に「野球応援で、みんなで歌いたい」と相談。硬式野球部副顧問の岡田明先生は当時ベンチにおり、「この応援歌のおかげで大変盛り上がった。来年度以降も継承されていくとうれしい」と語ってくれました。

③50 周年記念行事で披露

11/4（火）、前橋南高校 50 周年記念式典のⅡ部レセプションで、1 年音楽選択の生徒が応援歌「闘魂」を披露しました。吹奏楽部の演奏、書道部のメッセージとのコラボによる前南現役生による発表となりました。一発勝負（一回だけの本番）の中、しっかり歌い上げた 1 年生音楽選択の生徒達、立派でした！

歌ってくれた 1 年生のコメントを紹介します。

大勢の前に立って歌うのはとても緊張しましたが、一年生の音楽選択の人がいてくれたおかげで自信を持って歌うことができました。吹奏楽部の演奏で一緒に歌うのは初めての経験で、とても楽しかったです。ピアノだけではなくいろいろな楽器の演奏と一緒に歌える貴重な経験ができました。きっと、聞いていたほとんどの人は音楽選択者の人の声より吹奏楽部の演奏が強く耳に残っていると思いましたが、前南創立 50 周年記念式典というおおきなイベントで歌うことができたので良かったです。自分たちが 50 期生ということに誇りを持って生活していきたいです。（１年）

応援歌を 50 周年記念で歌うと聞いて初めは驚きましたが、授業で一回・二回、練習ができる機会を大切にし、本番で少し緊張しましたが、はきはきとわかりやすく歌うことができました。また、吹奏楽との演奏を合わせて歌うことは人生で初めてだったので、楽しんで歌うことができました。吹奏楽の演奏者たちが、自分たちに合わせてくれている感じがしてとても歌いやすく、貴重な時間を巡り逢うことができて良い経験ができたと思います。（１年　狩野　貴範）

本番当日は歌唱の方では参加できず、歌唱としての練習の成果は発揮できなかったけど、歌唱の練習で気をつけていた点を意識して、吹奏楽で伴奏をすることができたので、練習の成果が違う方向で生きたと思いました。例えば、最初はサビから間奏が始まるので力強い印象になるようにマルカート気味の音から少し硬い音にしたり、歌唱が始まったら歌唱が映えるようにピッチに気をつけながらできる最大限まで音量を下げたりしました。そして、最後の「難攻不落　前橋南高等学校」のところでは、歌と同様にしっかりとアクセントをかけられたのは歌の練習でずっと気をつけていた部分だったからだと思います。また野球応援や、他の学校行事で校歌や闘魂を歌唱ありの伴奏をするときは今回気をつけたピッチや音量、音のアーティキュレーションに気をつけ、更に歌唱が映えるように歌唱が歌いやすいような演奏を心がけていきたいです。最後に、今回歌唱ではなく伴奏で歌詞を思い浮かべながらできましたが、歌詞によって感情を載せて演奏できなかったので演奏でも歌唱でもできるようにしたいです。

（１年　小林　柚伽）

音楽の授業で応援歌の歌唱指導をしてくれた音楽の米山先生にコメントをもらいました。11/4 の応援歌披露では、指揮をしてくださいました。

前橋南高校創立５０周年記念式典《応援歌》の軌跡　米山由香先生

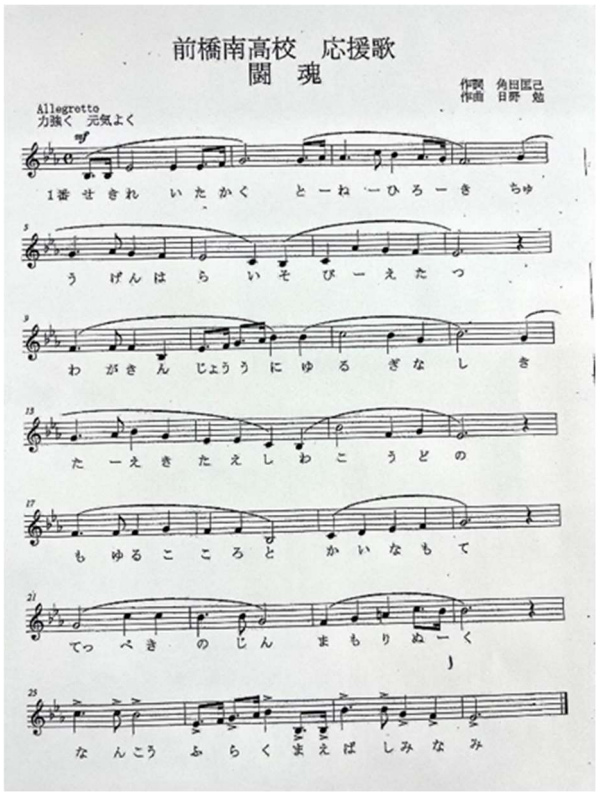
今年6月頃、前生徒会長の腰高さんが「前南の生徒手帳に載っている応援歌を野球応援で歌いたいです。みんなが歌えるように指導していただけませんか？」と訪ねてきてくれました。彼女の瞳はやる気に満ち溢れ、キラキラしていていたのを覚えています。

まずは全校生徒で練習し、野球応援メンバーは吹奏楽との練習を積みました。

本番で歌う頃には、応援歌は【校歌】に続く【私たちだけの歌・特別な歌】という存在になっていました。野球と応援が一体となった特別な瞬間だったように思います。

また、11月４日に開催された前橋南高校創立50周年記念式典では、書道部の演出・吹奏楽部の演奏に乗せて音楽選択者が歌唱するというトリプル・コラボレーションという企画になり、総勢約100名での表現となりました。

音楽選択者は、授業で歌詞の内容を読み解き【守りが硬い前南】を理解し、前南の生徒の伝統である【堅実で奥ゆかしく、それでいながら情熱のある様子】を表していることに気づくと、自然と歌に熱、心が入っていきました。

書道部・吹奏楽部・音楽選択歌唱者、それぞれがお互いのよさやバランス力を発揮し、一つの芸術作品を作り上げました。生徒はこの瞬間をがんばり、楽しんでいたと思います。青春の１ページとなり、また前南の歴史を刻みました。

前南の OB(12 期生)であり、創立 50 周年の今年度、色々なことに尽力してくれた鈴木事務長さんにも「50周年 Year」を振り返ってもらいました。記念の年に母校に勤務し、文化祭のクロージングセレモニーにおいて教員バンドでベースを披露し、記念グッズ策定や校舎のドローン撮影など 50 周年記念事業に奔走してくれた事務長さんにとっても 2025 年は記憶に残る一年だったと思います。

創立５０周年記念レセプションに感じた「マエナン・スピリット」　鈴木　明　事務長

生徒の皆さんが主体となり企画した 50 周年記念レセプション、本当に素晴らしかったです。〇×クイズで前南のトリビアを知り、吹奏楽部の演奏や今年復活を遂げた応援歌で盛り上がり、書道部パフォーマンスで掲げられた「夢想」という力強い言葉に深く感動しました。

SAHの取り組みについての発表の中では、生徒会本部から「失敗を恐れずにチャレンジすることが大切」というメッセージが発信されました。私は、このメッセージに前橋南高校が50年間培ってきた「マエナン・スピリット」を強く感じました。

高校生でも、大人でも失敗したり、間違ったりしても良いのです。良くないのは、それを否定したり、シニカルな態度を取ったりすること。これまでの先輩方がそうであったように、前南生の皆さんには、「マエナン・スピリット」を持って、勉強や部活動、学校生活などの場面でいろいろなことにどんどんチャレンジをしてほしいです。私も一卒業生として、この精神を忘れずに学校のために仕事をします！

★校長より★「応援歌を歌いたい」という話を聞いたとき、とても驚きました。生徒手帳に応援歌が掲載されていることは知っていましたが、「誰も知らない」と言われていましたので、歌われることは無いだろうと考えていました。これを野球の応援の場で歌おうとする動きが生徒から出てきたということは前南にとって、とても大きな出来事だと考えています。野球部応援から発生し、応援歌復活、50 周年記念式典での披露という一連の流れは生徒が作った、前南の歴史だと考えています。今回、復活した応援歌が歌い継がれ、また新しい歴史を作り出すことを望みます。（原　拡史）

文部科学省「ミラメク」note に本校の取組が取り上げられました！

昨年の 12 月にホームページやクラッシーの配信にて紹介させていただいたものです。SAH の 3 年間の取組を特集していただきました！改めてご覧ください。

文部科学省ホームページ→